

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900140		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名	グループホームぼらん室根		
所在地	岩手県一関市室根町折壁字兵沢114番地1		
自己評価作成日	平成23年11月25日	評価結果市町村受理日	平成24年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900140&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900140&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年12月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホーム「ぼらん室根」は平成22年12月25日に開所しました。姉妹施設として隣町にある「ぼらん千蔵」と平成23年2月に小規模多機能ホームぼらんがあり、日頃から親密に交流を図っています。同じく利用者様同士の交流も増え、毎日楽しく生活しています。開所時に職員全員で作上げた理念「笑顔大切に温かいホーム」と法人理念を毎日の小ミーティング後に唱和し、常に意識しながら利用者様とのコミュニケーションを大切にす、寄り添ったケアを心がけております。また、職員にとってもスキルアップを図る良い環境が整っており、より質の高いサービスの提供を目指しております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、街から少し離れた田園に囲まれた静かな所に立地している。児童館の跡地を利用して建てられており、地域には馴染みの場所である。近くには商店、公民館、バス停留所があり、子供たちが立ち寄ってくれるので、利用者と一緒に笑顔と元気な声が行き交っている。隣接する小規模多機能ホームの利用者との交流も頻繁に行われており、利用者、家族の安ど感に繋がっている。運営推進会議のメンバーも職種の異なる多数の構成員の強力なバックアップのもと、地域把握に努めるほか、地域に広く出ようとする姿勢が感じられる。開設して1年の経過ではあるが職員の資質向上に力を入れており、今後利用者個々の支援とともに、地域の関係づくり推進も期待できる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合い作成した介護理念をネームプレートの裏面へ明示し、ミーティングや業務の前に皆で唱和し利用者様一人ひとりが安心して生活を送れる環境づくりに取り組んでいる。	法人の理念を基本としながら、開設当時職員全員で作上げた「笑顔を大切に温かいホーム」を理念として掲げ、毎月のミーティングや毎日の業務の前には共有の認識に立ち、声掛けを大切にしながら、お互いに一日を笑顔で過ごせるようなケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加している他、近所の子供たちが来たりと、日常的に交流している。また、ホームの行事をお知らせし参加していただいている。	自治会に加入している。会長は運営推進会議の委員にもなっており、情報交換ができる。地域の文化祭には利用者が踊りを披露したり、職員のみではあるが道路清掃に参加している。バスの停留所にもなっているので、子供たちが立ち寄って利用者と笑顔の交流がなされている。ホームの行事では流しそうめんや敬老会には三味線を弾いて頂いたり、地域の皆さんが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員がキャラバン・メイト養成研修を受講しており、認知症に対する理解を深めていただく取り組みに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、運営推進会議で出された要望への迅速な対応を図っている。また、運営推進会議の際に前回の運営推進会議議事録を出席者へ配布している。	運営推進会議の委員には、職種が異なる多くの構成員が参加し、活発な意見が出されている。ホームの看板の設置、下水道の防臭のための排水ルートの変更、放射能の測定等有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当部署へは電話だけでなく、たびたび足を運んでいる。また、一関地区広域行政組合の介護相談員が定期的に訪問し、アドバイスをいただく等の連携がとれる関係作りをしている。	市の担当者は、運営推進会議の委員でもあり実務に関する事、業務に関する事等情報交換から相談まで良好な関係の下、緊密な連携が図られている。広域行政組合の介護相談員が年2~3回来所し、地域との交流を大切にしよう助言を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0の手引きの配布や勉強会を通じて全職員が理解できるよう努めている。また、転倒の危険性がある方でも申し送りを充実させ情報を共有することで、拘束しないケアに努めている。	身体拘束の勉強会は、外部、内部研修とも実施しており、意識の高揚、共有に努めている。以前、外出傾向が見られた利用者も今は落ち着いている。法人としての安全対策委員会があり、ヒヤリハットの事例交換をして拘束をしないケアのありかたに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが考えながら支援しているが、まだ高齢者虐待についての具体的な研修や勉強会は行っていないため、今後の課題である。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	姉妹施設で利用されている成年後見制度や「まもりーぶ」についての情報を収集し、利用者様が必要になった際は支援できるよう備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、お時間をいただき契約書と重要事項説明書の内容を丁寧に説明し、理解していただけよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当を中心に利用者様、ご家族様の思いや要望を聞き、その内容を記録し、ミーティングで共有している。また、苦情申立機関を重要事項説明書に明記、玄関にも要望・苦情等受け付け箱を設置している。	利用者の担当者を決めており、利用者の思いの把握には一対一でお茶を飲みながらや、入浴時に聞くように努めている。家族からは来所した際に意見を大切にしながら聞きとり、利用者、家族の守秘義務については職員全員で共通課題として取り組んでいる。玄関に要望、苦情等の意見箱を設置しているが現在のところ出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングを行い、代表者も含め意見交換し反映するよう努めている。また、管理者は常に身近な立場で、意見交換できる関係づくりに努めている。	毎月1回、本部長、管理者も含めてのミーティングで話しやすい環境づくりに努めている。夜の入浴のシフトの変更や姉妹施設との職員の交流、支援等や環境整備に関わる加湿器、物品の購入なども含めて意見が活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の職員の時間短縮や、様々な条件の受け入れ等の話し合いを持つなどの職場環境の整備や職員個々の意欲向上に対して果敢に支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員各人に目を配り、適正に合った研修に参加を促し、キャリア形成・キャリアアップについての啓発を継続的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は市・県内の研修への参加及び他施設との交流を積極的に促し、日頃からのホーム及び職員のネットワークづくりと「顔の見える職員」であることの大切さを日常的に説いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時、管理者・計画作成担当者がご本人様とご家族様とお話する機会を設け、不安・要望を受け止め安心の確保と信頼関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	前項同様に、入居申し込み書に介護上の悩みや困っていること、望まれるケア等を記入していただき良い関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、十分な聞き取りを行い利用者様本人と、ご家族様がまず必要な支援を見極め、対応・支援を心がけている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を共に過ごすことで、ご本人様の意思を尊重し残存機能を活かしながら利用者様と寄り添う姿勢を大切に支援を行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状況報告を行い、通院時には電話で報告している。また、ホームの行事や誕生日会には参加の声掛けをしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年馴染みの理容店に行ったり、面会に来られた際など再来の声掛けをし、今までの馴染みの関係が継続するよう支援している。	個々の利用者の馴染みの関係を継続するために、入居前のフェースシートや、家族からの聞き取りで把握している。又、入居後は親戚や、友人の訪問、手紙などで情報を得ながら、職員全員で共有し支援に取り組んでいる。理容店、かかりつけ医の通院、お盆には自宅に帰るなど様々の場面、機会をつくっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活記録等から利用者様の情報を収集し、個々の性格を理解しながら利用者様同士がコミュニケーションを取り合える支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した利用者様のご家族様から近況の連絡をいただいたり、ご家族様への情報提供に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情から希望等を汲み取り、生活記録へ記録しミーティングを通じて一人ひとりの思いを尊重し実現できるよう検討し実行している。	利用者のフェースシートや、生活記録から希望、願望の気持ちを汲み取り、自宅に行き作品を持ってきたり、季節毎の衣装替えをしたり支援に取り組んでいる。意思表示困難なときは、家族から今までの暮らしを聴きながら把握に努めて共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前記録やフェイスシート、ご本人様やご家族様からの会話の中から生活歴や趣味、嗜好を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々の生活の中で記録を共有し、申し送りをしている。また、月1回のミーティングを通じて情報を共有し、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	当ホームでは、担当制を取り入れることで利用者様の思いや希望等を良く聴き取り、また、ご家族様の思いや職員の気づきも介護計画に取り入れながら支援に努めている。	担当者から利用者の情報を聴き、家族が面会に来所した際には要望を把握し、職員の気づきも含めた連絡ノートとミーティングで介護計画を作成している。毎月のモニタリングは担当職員が見直しをしている。介護計画は、家族には面会時に説明し、遠方の家族には電話で要望を聞いて利用者からサインを頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を詳細に記入することによって、職員間で情報を共有し、ケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状態や状況に合わせて、医師や看護師、ご家族様に報告と相談を行いながら、最善のサービスを提供できるように努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の皆さんや民生委員、ご近所等とのかかわりを大切に交流を図っている。ホームでの行事にも参加を呼びかけをしており、利用者様方と楽しく過ごしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の意向を受けかかりつけ医・病院を定期受診し指示を仰いでいる。ご家族様の都合が悪い時には職員が付き添い、毎日のバイタルチェック表の他、気になることを主治医へ相談している。	かかりつけ医から協力医に変更された利用者が2名いるが、遠方のため家族からの要望であった。定期検診や専門医の受診は家族対応だが、家族の都合のつかないときは職員が同行し、医師、家族との円滑な連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、異常があった際は看護師への報告やかかりつけ医への連絡を行っており、迅速な対応を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際は、情報の提供をし、可能な限りお見舞いに出向き状況を把握し、退院までに備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明し、ご本人様・ご家族様の意向をできるだけ早い時期に確認するようにしている。また、状況の変化に応じて話し合い、かかりつけ医との連携を図っている。	入居時に看取りの指針を説明し承諾書を頂いている。ホームとしては、医療行為が生じた場合には限度があることや、寝たきりでも対応し得る最大のケアを支援することも説明し、職員全員で勉強会をするなど取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルを作成し定期的ではないが、シミュレーションを行い、実践力をつけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所の方々にも参加していただき、避難訓練を行い、避難経路や誘導方法を訓練している。消防設備、非常用食料も定期的に点検、準備している。	年2回、小規模多機能ホームと合同で消防署員の協力を得ながら避難訓練を実施している。反省点が活かされるように取り組んでいる。備蓄の準備もしている(飲料水、インスタント類の食糧、暖房器具、おむつ等)。	実際に暗くなった状況下での避難訓練は必要と思われる。明るいとき、暗いときの足場の違いも体感されることが重要であり、地域の方々の多くの協力が必要であるので、一層の働きかけに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの言葉に耳を傾け、否定しないよう心がけている。	ひとり一人の生活歴を把握し、「尊重」という意味の理解とケアについて常にミーティングで話している。個々の状況に合った声掛けをしていけるよう、職員間で共有に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者担当制にしており、コミュニケーションが密に取れるようにしている。思いや希望が表せるように会話を進めたり、話し易い環境をつくるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の希望を確認した上で、当日のショートミーティングにて予定を組み入れる等、希望に添った支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴の際、着る服を自分で選んでいただくよう支援している。また、女性利用者様は外出時などお化粧されている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや調理、配膳や下膳、食器拭き等、毎日の日課となっている。また外食をしたり食事前には口腔体操を行い、楽しく食事が摂れるよう支援している。	栄養士が1か月分の献立を作成するが、利用者の好みで変更したり、食べられない方には代替食のメニューとしている。スーパーの広告を見て食べたい物を話したり季節感を感じるよう工夫している。食事の準備、片付けを利用者の殆どの方が一緒に行い、一日の大切な活動のひとつとしている。地産地消に努め、近所からの差し入れが食卓に出るなど、同じテーブルで楽しく食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立で栄養量やバランスを管理しており、1日の食事、水分摂取量も総合グラフでチェックし、一人ひとりの状態や好みに応じた支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、ご本人様の状態に合わせて一部介助もやっている、			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入を確実にし、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、さりげなく声掛けするよう心がけている。	個々の排泄パターンの把握と身体機能に応じて誘導声掛けを行い、扉の外での見守り等支援に取り組んでいる。夜間のみポータブルを自室で使用している方もいる。失禁時の対応についても居室からさりげなく持ってきたり、入浴時に確認をし、清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し便周期を把握し、便秘の方には牛乳や漢方茶を提供している。また、散歩や軽体操等で予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日のバイタル測定値を確認し、ご本人様に体調や気分を伺いながら支援している。また、日々の関わりの中で好みの入浴時間に楽しんでいただけるよう心がけている。	入浴可否のバイタルは、かかりつけ医の健康診断の数値や本人の様子から入浴に結び付けている。本人の希望に沿うよう毎日の入浴、日中、夕方など様々であり、見守りながら実施されている。入浴の消極的な方には職員の声掛けと工夫の努力が窺える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室の室温調整や換気、清潔な寝具の提供や生活リズムを把握し、状況に合わせた休息や安眠が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書をファイルにまとめ、いつでも回覧できるようにしている。副作用等の症状の変化にも観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の日課、行事参加時も役割を持っていただき、楽しみながら張り合いのある生活を送っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿えるよう外出や散歩の対応をしている。お花見やりんご狩りなど季節を感じていただけるよう外出も多く計画し、ご家族様へも声掛けしている。	集団での季節毎の外出や、ドライブ、気仙沼、千厩方面への買い物など、支援に取り組んでいる。個々については、毎日バス停まで行く方、小規模多機能ホームに行く方、利用者の中にはケアプランに取り組まれていて千厩のグループホームへ訪問したり、気仙沼の友人に出かけている。	自治会長からの声掛けで文化祭に出かけたりしているが、個々の日常的な支援については事業所側からの積極的な声掛けと、地域住民の協力を得ながら外出支援を進めていくことでお互いの理解を深めることにも繋がるので、今後の取り組みに更に期待したい。

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に金銭管理、出納帳は職員管理で行っているが、自己管理をご希望されている方については、ご家族様了承のもと、所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	離れて暮らすご家族様や友人といつでも電話できるように支援している。また、受診報告等の際にもご本人様と代わり、お話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に制作した季節の作品を廊下に展示している。また、日常生活の様子や食事、おやつを飾り生活の様子がわかるよう工夫している。	利用者職員共同作品で、大きなちぎり絵の室根山と、大きな手作りの暦があり、廊下にはリンゴ狩りと、食事のメニューの写真が貼られていた。畳の小上がりも段差がなく、炬燵で自由に休めるよう配慮されている。観葉植物もところどころに置かれ、クリスマスツリーも飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファ、食卓テーブルやイスの配置を工夫し、利用者様一人ひとりが好みの場所で過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や写真等を持ってきていただき、居心地の良い環境で過ごしていただけるよう工夫している。	備え付けは、ベット、クローゼット、洗面台となっており、あとは本人の希望により自宅から自分の作品を持ってきたり、家族の協力で着物の持ち込みがあったり馴染みの部屋に近づけるよう工夫されている。ほかにも仏壇、家族の写真、加湿器、イス、人形、テレビなど、採光もよく、明るい雰囲気のある居室であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、居室の場所が分かりやすいよう表示を行い、声掛けや誘導している。居室内も希望のあった方にはベッド柵を設置している。		